

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	日本環境クラブ		
代表者	峰 博	担当者	峰 博
所在地	〒 546 - 0043 TEL: 06-6694-8316 E-mail: seijian@yahoo.co.jp		
設立の経緯 ／沿革	2005 年設立		
団体の目的 ／事業概要	大分県におけるトラスト、植林		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	現在 5 万坪を取得し、植林中		
ホームページ			
設立年月	年 月 *認証年月日 (法人団体のみ) 年 月 日		
資本金/基本財産 (企業・財団)	円	活動事業費/ 売上高 (H17)	円
組 織	スタッフ/職員数 5 名 (内 専従 3 名)		
	個人会員 名	法人会員 名	その他会員 (賛助会員等) 名

政策のテーマ

廃棄食料品を近海魚への飼料に

■政策の分野

・水産漁業

■政策の手段

・近海魚養殖

・廃棄食品

団体名：日本環境クラブ

担当者名：峰 博

■キーワード

① 政策の目的

② 背景および現状の問題点

供給される4割もの食糧およそ2000万トン、11兆円が捨てられています、人には無理でも、魚であれば十分に食べられるものです、肉食が当たり前になっていますが、1キロの肉を作るために8キロの穀物が使われます、腸の長いアジア系の人は過剰な肉食が健康を害するとの説もあり、穀物高騰が進むのが確実な将来、日本は蛋白質源として海産魚を重視すべきでしょう。

そうした食品の廃棄にもエネルギーとコストがかかります、残飯や廃棄食品は、豚や牛の飼料そしてメタンガスにするとか、炭酸ガスに分解させてしまうのではなく、近海魚の飼料として選別の上、海上で散布するのはどうでしょうか、し尿投棄とは異なり、直接魚の栄養になります。細るばかりの近海魚の漁獲を支援することになるのではないのでしょうか、勿論そのためには海上投棄関連法を改正しなければなりません、

③ 政策の概要

2000万トンの3割、600万トン近海魚へ投与します。
この結果、近海漁獲量は2割以上増加するものとおもわれます

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

近海魚の漁獲ルートをそのまま、逆方向に利用します。
生簀などのない養殖漁業といえるでしょう。

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

選別の高度化を実現できれば1000万トンも投与できるようになるかも知れません、漁業活性化の糸口になるかも知れません

⑦ その他・特記事項

有機物である廃棄食品をエネルギーレベルの低いものへと処理することは大きな損失です。高いエネルギーレベルのままに利用すべきです。

民主党は針葉樹の大規模造林、林家100万人を提唱していますが、大きな誤りです、腐植のできる落葉広葉樹のみを植林するか、台風被害の少ない自然林を目指すべきです。

これにより、河川に優良な水が流れ、近海のプランクトンが増加し、魚類増加になります